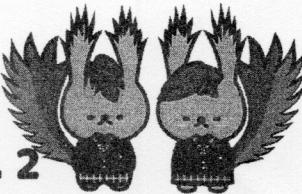




# 新陽通信

VOL.2



発行者：札幌新陽高等学校 新陽通信発行プロジェクト  
発行日：2023年6月23日

本通信は、新陽高校赤司辰子校長の校長日誌（「週刊新陽～校長室から」）の記事を抜粋し、今までに新陽高校で起きている“生きた”情報を澄川地区の皆様にお届けします♪

2023年  
5月3日  
号より

## ◆学び続ける学校の先生～ICT授業研修会

4月28日（金）の放課後、今年度最初の全校授業研修会を行いました。今回の研修テーマは「ICT×授業」。積極的にICTを使っている新陽高校ですが、去年ふと「アプリを使うのが当たり前になっているけど、それがベストな選択肢か考えて使っているだろうか？」という疑問が湧きました。

グループディスカッションの中で、アプリを使いモチベーションを上げる先生や、アナログとデジタルを使い分ける先生などのアイデアがシェアされました。内容を共有した後、尻江先生から「ICTをうまく使うコツは、なんのために使うか、そのツールを使う意味を明確に持つこと」とアドバイス。

大事なことは、様々な学習スタイルとICTの組み合わせ、学習効果をアップさせること。意図を持ってその環境を作り生徒と関わることの重要性を改めて感じた研修となりました。

YOSAKOI  
ソーラン  
祭り  
2023

第32回大会となった今年は、238チーム・2万4千人が参加しました。新陽高校からは、繪碧・群青・青藍・蒼天の4チームが参加いたしました。

新陽高校1年生の恒例イベントとして定着するYOSAKOI。入学して2ヶ月間、体育の授業や放課後の時間を使いながら、「学年全員で」やり切ること・多様な目で「見られる」経験を積むということ、を達成するために準備を進めてきました。札幌駅南口広場、道庁赤れんが広場、大通公園西8丁目ステージ、そして150名でのパレードと回数を重ねていくことで、掛け声のボリュームが大きくなったり、腰や膝が曲がるようになったり。生徒個々人の変化を感じ取ることができました。

その中でも13年ぶりに開催となった澄川会場（@澄川あじさい公園）での演舞は、生徒にとっても印象深いステージだったように感じています。朝、学校の体育館に集合した生徒たちは、歩いて澄川会場へ。道中で出会うYOSAKOI参加者の方々の雰囲気に少し圧倒されたのか、待機スペースでは「とても緊張してきた、少し気持ち悪くなってきた」「この状態でステージに立って良いのかな？」といった不安を吐露する生徒もチラホラ。ステージとお客様との距離の近さもあってか、演舞中にたくさんのことを見たが感じ取っていました。澄川会場からの移動の際に、「もう少し声が出せたよね」「もっと動きを大きくした方が良いね」と即時のリフレクションを行う生徒の姿もありました。

最後に、今回のYOSAKOIは地域密着だったこともあってか、地域の皆さんから学校や教員への叱咤・激励の言葉をたくさんいただきました。地域の一員として一層の自覚を持ち、一緒に前に進んでいきたいと思います。



↑HPはコチラ♪